

—活動報告—

震災対応と付属病院

小林 義紀

日本医科大学付属病院庶務課

Countermeasure for Earthquake Disaster and Nippon Medical School Hospital

Yoshiki Kobayashi

The General Affairs Section, Nippon Medical School Hospital

東日本大震災に被災された方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災に関して付属病院においての対応を述べさせていただきます。

3月11日震災発生直後にB棟1階・守衛室に対策本部を設置すると同時に各部署より患者のみなさまの安否、機器類、建物などの被害状況を各部署から受け、被害状況の把握に努めました。

その後、対策本部をB棟1階の入退院受付待合室に移設し、窓ガラスのひび割れなどの建物の被害に対しての緊急対応を行うとともに、設備関連の点検を実施いたしました。

また、震災当日は交通機関が全線にわたり停止している状況でしたので、帰宅できない患者のみなさまや、お見舞いに来られた方々へA棟3階待合フロア、東館1階フロアや輸液療法室の待合室などを待機場所として提供し、気温が下がり始めた夕刻には毛布をお配りしました。

22時頃には栄養科の協力を得て、帰宅できずに待機されている方々へ「おにぎり」や「みそ汁」「飲物」などの配給もさせていただきました。

一方、帰宅できない職員の方々へは看護師寮の空き部屋や研修室などに寝具を搬入して、臨時宿泊施設を提供するとともに、各部署へ翌日勤務者の確保を依頼し人員確保に努めました。

院内の診療体制につきましては、院長、副院長を中心に各部署の責任者を集め、電気の供給、電子カルテ

の運用、検査・画像診断の状況、栄養科の対応などについて、状況の確認ならびに電気供給の制限が行われた場合の対応についてなどの協議を行い、診療体制確保の確認を行いました。

被災日以降は、福島原発事故に伴う被ばくを疑われる患者のみなさまからの問合せに対する体制づくりや、本院が供給を受けている金町浄水場の水道水から国の基準を超えるヨウ素が検出されたことの報道への対応を行ってまいりました。

病院の診療体制確保のほかでは、震災発生直後より各種団体より被災地からの患者受入れ要請（調査）や医師、看護師、コ・メディカルの被災地への派遣依頼が多数まいりましたので、その対応に追われました。

特に、被災地への職員の派遣依頼につきましては、食料品や燃料などの提供がない状況であったにもかかわらず、多くの医師、看護師、薬剤師の方々が被災地に向かいました。

また、浜松医科大学、順天堂大学、聖マリアンナ医科大学、聖隷浜松病院に本院を加えた5施設連携のリレー方式による被災地医療支援で、いわき市立総合磐城共立病院ならびに公立相馬総合病院の支援に参画しました。

今後も本院におきましては、被災地支援を関連各部署と相談をしながら、実施して行きたいと思っております。

(受付：2011年8月11日)

(受理：2011年9月1日)